

月刊 グラフィックサービス

No.865 2023 12

第26回
日本自費出版文化賞
大賞

墨に五彩あり
—墨の不思議な魅力—

綿谷 正之 著
(奈良県奈良市)

発行所/京阪奈情報教育出版
印刷所/共同プリント



京阪奈情報教育出版株式会社
制作部
津畑 葵さん

共同プリント株式会社 代表取締役
京阪奈情報教育出版株式会社 代表取締役
住田 幸一さん

共同プリント株式会社
制作部
三谷 美緒さん

■ 巻頭速報

ジャグラ全国協議会を開催

■ 巻頭言

2023年ジャグラ全国協議会に参加して

—熊本県支部長/ホープ印刷(株) 森田 守尚

■ 特別企画 RMGT・キャレオス・ジャグラ合同 雇用環境整備事業に向けた インドネシア・バリ島視察レポート

■ 連載・シリーズ

需要創出を考える²⁷ キング印刷(株)(福島)

■ NEWSとお知らせ ジャグラ作品展募集 地協・支部のインボイス対応



CONTENTS

■ 巻頭言

- 1 2023年ジャグラ全国協議会に参加して
熊本県支部長／ホープ印刷(株) 森田 守尚

■ 巻頭速報

- 2 ジャグラ全国協議会を開催

■ 特別企画

RMGT・キャレオス・ジャグラ合同

- 4 雇用環境整備事業に向けた
インドネシア・バリ島視察レポート
報告者 田中 良平

■ 連載・シリーズ

- 24 需要創出を考える⑭

令和4年度ジャグラ作品展 業務用印刷部門 厚生労働大臣賞
CAFE OHZAN 様 2022クリスマスアドベントカレンダー
キング印刷(株) 代表取締役 伊東 邦彦

■ NEWSとお知らせ

- 10 インボイス制度導入にあつての請求書や領収書の対応について
15 JFIP REPORT ダイジェスト版
16 ジャグラ作品展募集
27 業界の動き
日印産連 環境大賞表彰式
ジャグラ新潟 理事会
JAGAT 「印刷白書 2023」を発刊
28 月刊グラフィックサービス リニューアルへの取組について
23 雑学コラム⑩ 29 事務局日誌と今後の予定

- 12 富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)
13 ホリゾン・ジャパン(株)
14 (株)小森コーポレーション
18 リコージャパン(株)
19 (株)モリサワ
20 (株)ショーワ
21 東京リスマチック(株)
22 (株)モトヤ
23 (株)研美社
表4 リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概要】

| | | | |
|------|------------------------------------|------|----------------------|
| 発行回数 | 月1回 / 年間12回 | 配布方法 | ・全会員へ直接郵送 |
| 購読料 | ジャグラ会員は無償(会費に含む) ・希望企業、団体への有償配布 | | ・ジャグラホームページからのダウンロード |

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール edit@jagra.or.jp 電話03-3667-2271 ファクス03-3661-9006

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

2023年ジャグラ全国協議会 に参加して

熊本県支部長／ホープ印刷(株)

森田 守尚



「朝陽が水平線から 光の矢を放ち〜♪」ピンと来られた方も多いのではないのでしょうか。通勤中の車内、Youtube のリコメンドで流れてきた松田聖子の「瑠璃色の地球」のサビを聴いた途端、なぜかじんわりと涙してしまいました。心が疲れていたのか、ただの歳のせいなのか。ん〜、後者ですね。朝からとても温かい気持ちになりました。改めまして、こんにちは。熊本県支部長の森田守尚(スナオ)と申します。

はじめまして、の方が大半ですので簡単に自己紹介からさせていただきます。1977年、長崎県の小浜町という町で宮むちゃんぼん屋の次男として生まれ、今年で46歳になります。大学進学をきっかけに熊本に引っ越し、25歳の時に現在の会社に営業職として入社しました。そんな中、今年の4月に当社の前社長が急遽退職することになり、当時取締役であった私が社長業を引き継ぐと同時に、ジャグラ熊本県支部長も引き継がせていただくことになりました。その節は関係者の皆様にはご迷惑とご心配をおかけし、大変申し訳ございませんでした。ということで、私のジャグラ歴はまだ7ヶ月ほどです。入会2ヶ月目の6月に開催されたジャグラ文化典高知大会は、周りの流れに身を任せるがままに何となくボンヤリと参加しましたが、11月10・11日に開催された全国協議会には、ジャグラという会がどういう会なのか、支部長としてどのような役割を果たすべきなのか、ということをおある程度考えた上で参加することができ、非常に有意義な会となりました。今回は全国協議会の参加報告を致します。

一日目は日本防災士機構の中野様から「防災対策のポイント」と題して、災害の種類によって取るべき対応が異なること、ハザードマップや自助の重要性などについてご講演をいただき、続けて地域活性化委員会担当理事の岡さんから、開発が進んでいるジャグラコンパスセーフティカードの概要説明が有りました。当社は自治体や学校とのお取引が多く、また TSMC の進出により台湾からだけではなく、全国各地から熊本に来られたばかりの方が多数いらっしゃる地域ですので、多言語化も含めてお役立ちでき

る場面があるのではないかと考えながら拝聴しました。

その後、「作品展募集のアイデアと地協活性化」について8つのグループに分かれてディスカッションを行いました。割り当てられていた60分がまさにあっという間。皆さんそれぞれにご意見と熱い想いをお持ちで、活発な意見交換が行われました。

二日目、各グループの発表が行われました。「作品展募集のアイデア」については、作品展そのものの認知度が低い、取り扱っている商品が応募しづらいものばかりである、入賞作を見ると気後れしてしまう、応募したあとのフィードバックがほしい、などの意見が出ました。支部や地協単位で取りまとめ、応募しやすい雰囲気を作成するような条件整備ができれば、応募数は増えるのではないかと思います。「地協活性化」については、会員の維持拡大に向けて、地協や支部でメーリングリストを作り情報共有を図る、地協や隣県合同でセミナーを企画する、仕事以外のイベントで親睦を図る、カメラマンやデザイナーなどの印刷関連業者が集まれるコミュニティスペースを作る、など今後支部長として活動する上で非常に参考になる事例を知ることができました。また、どなたかのお話の中で、会員企業の発展無くして会の発展は無い、という言葉があり深く心に残りました。まさにその通りで、会員企業の発展のために会の中で情報を共有し、学び合い実践することで会員企業が発展し、支部や地協が活性化することで会全体が発展するというポジティブなスパイラルができていくのだと思います(なまこいてすみません)。

今回の全国協議会では様々なことを学ぶことができましたが、中でも一番は人前で話す時の表情や声色です。参加者の皆さんはとにかく話が長い、もとい、話がうまい。日頃から考え、しっかりした自分の意見があるからこそ、人前で堂々と話せるのではないかと思います。懇親会では新支部長としてご挨拶をさせていただきましたが、まだまだ緊張するし声が裏返りそうになることもあります。先輩方のように堂々と簡潔に(笑)話することができるように頑張ります。

ジャグラー全国協議会を開催

ジャグラー本部役員ならびに全国支部長が一同に集まり、本部事業等について意見を交わす全国協議会が11月10日、11日の2日間、東京ドームホテルで開催されました。協議会詳細は次号にて紹介しますが、速報としてグラフページで当日の様子を報告します。



①挨拶する岡本会長、②全国協議会会場、③生産性向上委員会が正文舎からLIVE配信した、④日本防災士機構の中野課長から防災対策のポイントを学ぶ、⑤地域活性化委員会がジャグラーコンパス販売のロープレーを披露、⑥紹介する齋藤地域活性化委員会委員長、⑦年賀状デザインコンテスト受賞者と岡本会長、⑧受賞作、⑨表彰されるカラー部門の金精社、⑩賛助会員も招待した懇親会、⑪懇親会でSPACE-21九州大会のお礼を述べる佐藤運営委員長と笹井代表幹事、⑫⑬⑭作品展の作品集めと地協活性をテーマにしたグループディスカッション、⑮説明する伊東地協支部活性化委員会委員長、⑯ジャグラー公式アプリを発表する本村広報委員会委員長、⑰2月のセミナーを告知する松下サステナブル委員会委員長、⑱JPA活動を紹介しますのJPAの前田様、⑲2日目会場、⑳2日目進行を務めた原田副会長、㉑㉒2日目のグループディスカッション発表

RMGT・キャレオス・ジャグラ合同 雇用環境整備事業に向けた インドネシア・バリ島視察レポート

報告者 田中良平

○視察に至るまでの経緯

中小企業の人手不足解消の手段としてデジタル化による自動化や雇用拡大が考えられる。

ジャグラでは生産性向上委員会ならびに MIS 研究委員会を通じてすでに自動化、生産効率の向上のための情報収集、発信を進めている。一方で、雇用拡大については、少子化と人手不足が重なる中、中小印刷業に希望する人材を確保することが困難になっており、この傾向は続くことが予想される。

現状維持で 10 年先の事業継続を検討されない場合、雇用拡大の必要はないが、将来を見据えて事業を継続しようとする中小企業にとっては、より一層人材確保が難しい時代が到来することが懸念される。

その雇用問題解決の手段としては、障がい者雇用、外国人の雇用が挙げられる。障がい者雇用に関しては、サステイナブル委員会の中で好例を今年度中に発表することが決まっているが、外国人雇用については課題も多く、現状未着手の状況になっている。そのような状況下で、政府は現状の技能実習制度の見直しを進めている。技能実習制度は本来、途上国の若者を一定期間、日本で雇用して技術を学ばせたのち、帰国させて自国の技術振興、発展等に寄与してもらう社会貢献事業に近い性質のものだが、受け入れ側の日本では労働力の一つととらえられており、これを整理整頓するため外務省が「技能実習制度および特定技能制度の在り方に関する有識者会議」を設置して新制度設立に向けて検討を重ねている。

新制度の中身に関してはまだ発表されていないが、いずれにしても外国人を働き手として迎え入れる法整備が進むことが予想される。法規制が緩和の方向に向えば、中小企業で外国人雇用拡大が予想される一方で優秀な外国人人材を中小企業で取り合いになることが懸念される。こうし

た状況を念頭に、ジャグラが先導して中小印刷業界での外国人人材確保の道筋を模索したい。

【行先】 バリ島デンパサル

【日程】 2023 年 10 月 26 日 (木) ~ 29 日 (日)

【参加者】

ジャグラ：原田大輔副会長、岡達也副会長、田中良平

RMGT：戦略推進室 山野健作室長、森岡正一マーケティング部長

キャレオス：森 郷様

ジャパンケアサポートインドネシア：柘磨 (タルマ) 昭宏支社長、Yosua Christmast Firmanto 校長、篠沢佐助様

◆ 10 月 27 日

| | |
|-------|-------------------------------|
| 9:00 | 集合 |
| 移動 | |
| 10:00 | フジアカデミー アヤニ校 |
| 移動 | |
| 12:00 | フジアカデミー スティルマン校 |
| 移動 | |
| 昼食 | |
| 移動 | |
| 14:00 | エシカルホテル Potato Head |
| 移動 | |
| 16:00 | The Museum of Space Available |
| 移動 | |
| 夕食 | |

◆ 10 月 28 日

| | |
|-------|--------------|
| 8:30 | 集合 |
| 移動 | |
| 10:00 | WEDOO |
| 移動 | |
| 昼食 | |
| 14:00 | テヌグンガン滝、クタ市内 |
| 帰国 | |

※ 10 月 26 日は移動のみ (入国)、29 日は移動のみ (帰国)

10/26

朝 8 時に成田空港に集合した視察団一行、途中トラブルはあったものの無事に出国手続きを終え、11 時発のガルーダ・インドネシア航空のフライトでインドネシア・バリ島のングラ・ライ国際空港へと旅立った。国内航空会社の機材に乗り慣れていることもあり、ガルーダ航空のエコノミー座席の直角

具合に背筋を正され、室内気温 19 度と常夏の国に向け薄着となっていた体を心身ともに凍えさせながら約 8 時間のフライトを過ごした。数年ぶりの長旅だったが、電話のならない環境で有意義に事



務作業をこなすことができ、意気揚々とインドネシアの地に足を下した瞬間、エキゾチックな空気が鼻孔をくすぐり、まとわりつくような湿気を伴う暑さが冷えた体を温めながら外国に着いたことを肌身に感じさせた。

語学力がないため、受験生さながらに入国審査時の想定問答集を繰り返し頭で復習しながら、臨んだものの何か問われることもなく、入国スタンプを押されて拍子抜けしつつ、横目で RMGT の M さんが色々と質問されているのを見て、「質問される人の基準はなににか」と考えさせられた。

無事に空港を出るとジャパンケアサポートインドネシアの柘磨 (タルマ) 支社長が出迎えてくれ、すっかり暗くなった夜の街を車で移動した。

今回の旅では何度か衝撃を受けたが、その一発目は、バイクの多さ、そして区画線無視で自由に車道を乗り回す車たち……。中にはどう見ても小学生のような面持ちの男性 (もしかしたら童顔だっただけかもしれない) がバイクを二人乗りするバリ島の交通事情。タルマさん曰く、お金を払えば免許が 30 分で取れるとのこと。交通ルールは「自己責任で事故らないように気を付ける。事故った時は示談が一般的」だそうだ。いつ事故が起きるか初めての土地にきた高揚感ではない動悸を覚えつつ、途中パトカーのサイレンが聞こえたので、「やはり」と思ったが、VIP を優先的に移動させる先導のサイレンだった (これもお金を払えば一般人の我々も利用できるらしい)。

夜も更けていたため、早々にレストランで食事を取り、初のインドネシア料理を想像以上にきれいなレストランで、バリのワインと共に堪能し、ホテルで移動の疲れを癒した。

10/27

早朝。移動の疲れも癒えて早く目覚めたため、町を散策しようと部屋を出たものの、ロビーにたどり着かず、プールサイドから浜辺に出た。早朝から掃除やレストランの仕込みをする現地の人々、海辺をジョギングする欧米系の旅行者 (?), 今振り返ると、その後の濃密なスケジュールの前の静寂だったのかもしれない。散歩を終えた後、朝食を取り、9 時にロビーに集合。いよいよ視察が本格スタートした。



FUJI ACADEMY アヤニ校

最初に訪問したのは、ジャパンケアサポートインドネシアが運営する FUJI ACADEMY アヤニ校。FUJI ACADEMY のアヤニ校は、介護技能実習生の送り出しを専門としており、半年間で日本語と介護の基本知識を習得できる。2017 年 9 月の設立以来、380 名の介護実習性を日本に送り出している。介護人材の育成では、アヤニ校とシンガラジャ校の 2 校あり、最大 230 名を受け入れる体制を整えている。全寮制で学生たちは寝食も含めて同校内で半年間過ごす。介護技能実習生については、N4 (日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できるレベル) の日本語習得が必須ということもあり、対応してくれた生徒は入学 3 ヶ月目ということだが、礼に始まり、自己紹介までしっかりとした日本語で答えてくれた。質疑の際、こちらから母国語で答えてもらって問題ない旨を伝えた時も、日本語で自己紹介した後、「インドネシア語でよろしいでしょうか」と一言断ってから切り替える礼節の正しさには、FUJI ACADEMY の教育レベルの高さと、そこで学ぶ生徒たちの真摯な想いを感じさせた。この時点で「外国人労働者」という感覚はやはり間違っていることを再認識させられた。

生徒たちに日本に来たことがあるか尋ねたところ、誰も来日経験がなく、日本のイメージの多くがアニメや漫画からのものだという。日本に来たことがない彼女、彼らが、37 万円というバリの住民にとって決して安くはない学費を払って、FUJI ACADEMY



で学んで実習生として日本に行く理由はやはり「お金を稼いで家族を助けるため」だった。

突然訪問した我々に興味津々に輝くような眼差しと笑顔を向ける生徒たち。行ったこともない土地で働くため、それぞれの想いを抱えて早朝から遅くまで半年間、日本語を覚え、日本の文化を一生懸命学ぶ姿勢は、日頃日本で丁々発止と世の中を渡る私たちを常に圧倒させた。

スディルマン校

女生徒中心のアカニ校とは一変し、次に視察したスディルマン校は男性中心の校舎だった。FUJI ACADEMYが新たに開設した校舎で、700名の生徒を受け入れ可能な規模を誇る。アカニ校は介護人材の育成だったが、スディルマン校ではそれ以外の紡績、建設、ハウスクリーニングなどの業種向けとして運営している。

スディルマン校では、技能実習生として訪日経験もあるYosua Christmast Firmanto 校長が対応した。最初は強面の視察団に緊張の面持ちで汗がぐちゃぐちゃだったが、その誠実さを表すような笑顔で私たちの質問に答えてくれた。質問はスディルマン校の特徴だけでなく、Yosua 校長の実習時代の話にも及んだ。特に気になった点としては、職場での人間関係だったが、介護業界では技能実習生が定着しており、ご本人も日本語が堪能であることから、人種的な問題や文化の違いに関して軋轢は無かったという。それよりも苦労したのがゴミの分別と食事だったと意外な答えが返ってきた。

◆キャレオスグループ

今回、リョービ MHI グラフィックテクノロジーが主催する CSPI (Consortium Sustainable Printing Industry) を通じて紹介いただいたキャレオスグループは、広島県福山市に本社を構える企業で、設立は1984年。介護福祉サー

ビス等のシニア事業、児童発達支援のジュニア事業、コンサルティング事業、放課後児童クラブ運営の地域共創事業、そして今回の外国人材育成、送り出し機関としての国際事業の5つの事業を柱としている。2023年6月時点で従業員数は1,015名にのぼる。

国際事業として運営するフジアカデミーでは、前述のように日本語教育を行うだけでなく、インドネシアの38の学校とリクルート提携して生徒を募集し、介護に関しては3ヶ所の介護施設で実習が行える体制を整えている。企業からのオーダー型と教育採用型の両方に対応し、高卒者へとリクルートを行い、優秀な人材確保に力を注いでいる。日本国内での実習生へのケアサポートも行っており、これまで送り出した実習生で失踪者は0名を達成している。

FUJI ACADEMY 見学のまとめ (私的感想)

本事業検討に先立ち行った会員向けアンケート調査ではほとんどが現状のニーズはない。言語・文化の壁が障壁になっていることも分かった。しかし、実際にバリに赴き、当地の空気をリアルに感じながら、フジアカデミーの教員、校舎、そして生徒たちと言葉を交わすことで、技能実習生ではなく、優秀な人材を海外で確保するという、受け入れ側の意識改革も必要なのだと感じた。

一方で市内を回ると、日本人に会ったのは空港のみ。大半は白人(ほぼオーストラリア人だという)で、バリ島の若者の目線も自然、日本からオーストラリアに向かっている(バリ島から2時間)。こうした状況下で、日本への実習制度を選択してくれた生徒たちは、「日本の安心安全、給与水準の高さ(平均20万円、夜勤手当込みで25万~28万円、家賃別)」を挙げる。これまでの日本は発展途上国の外国人を“低賃金で働いてもらえる労働者”として見る傾向にあったと思うが、意識を変えれば相手も変わるのではないかと、期待感を持つには十分な視察となった。

エシカルホテル Potato head

2校を視察して今回のツアーも終わり、あとはゆっくり観光を・・・というわけには行かない。せっかくの視察の機会、キャレオスの森さんから事前に他に何か見たいものがあるか尋ねられ、案として出したのが後半戦のサステナブルツーリズムだった。

バリ島は観光立国としてリゾート感溢れる土地柄だが、一方で非常にゴミ処理を中心とする環境問題が深刻な社会課題となっている。路上の目につく範囲でもどこかしらにゴミが落ちており、年間156万トンのゴミが発生しているが、そのうちリサイクルされているのは5割しかない。日本でも環境問題は切っても切り離せない課題だ。あらゆる業種、業界とつながることのできる印刷業にとって、バリ島の環境活動にフォーカスすることは無駄にはならないだろうと後半はサステナブルツーリズムの現状を追った。

テーマは「プラスチックのアップサイクル」。日本では大規模なリサイクルシステムがあり、生活者レベルでは脱プラの方向性で進んでいるが、海洋プラスチックも含め一般的には十分とはまだ言い切れない。バリ島でのプラスチックゴミ処理では、アップサイクルが一つのトレンドになっている。

最初に訪問したのはデンパサルの西海岸、スミニャックにあるエシカルホテル『Potato head』だった。同ホテルはビーチクラブが運営する高級リゾートホテル。一泊3万円以上とジャグラの規程の2倍以上・・・もちろん見学だけ(残念)。ゴミゼロ活動を推進しており、通常のホテルのウエスが平均51%の中、2%と驚異的な数字を実現している。ホテルのウエスで半数を占めるのがキッチンウエスだが、これを抑えても2%はすごい。無駄なものを無くす手段として、宿泊者全員にチェックイン時、ステンドレスのボトルとエコバッグが渡される。ここではごみは分別せずに回収した後から、「有機ごみ」と「肥料ごみ」「燃えないごみ」に仕分ける。そうすることでパイナップルひとつ取っても、房は有機ごみとして植物用の肥料に、果肉は肥料ごみとして豚の餌に再利用しているという。

また、リサイクルだけでなく、アップサイクルにも取り組んでおり、なんとホテル内にプラスチックを砕いて再利用するための機械を備えていた。ここで再利用可能にしたプラスチックは、ホテル内の案内板や客室の家具などへと利用されている。

ホテル宿泊者が醸し出す何とも言えないセレブ感とホテル全体の高級感、それにリサイクル、アップサイクルをスマートかつスタイリッシュにこなす Potato head に低所得者の自分は終始圧倒され、語彙力なく「意識高あ〜」としか言葉が出てこなかった。



ホテル内にアップサイクル用の機械を設置

ナイトクラブの壁は窓などの廃棄物

竹を編んだような天井だが、プラスチックのアップサイクル

プラスチックのアップサイクルで作られたモニュメント

The Museum of Space Available

朝から視察漬けの一行。移動中の車内でも疲労で無口になり始めたので、そろそろ観光! ? とはいきません。まだまだ行きます。すでに午前中の視察から質疑が盛り上がりすぎて常に予定時間をオーバー。

次に訪問したのはデザインスタジオ『The Museum of Available』。20万本のペットボトルキャップをリサイクルして作られたスタジオは、循環型デザインの施設とし



菌糸を型にはめて作成したトレー。発泡スチロールのような作り



約半年間、校舎内の寮生活で朝から晩まで日本語を学ぶ

日本での生活を想定した学校の規則が細かく取り決められている



てプラスチックでリサイクルした製品やマッシュルーム（菌糸）を使ったバイオマスプラスチック、アップサイクルした洋服が展示、販売されていた。洋服を陳列するハンガーも Potato head で見た家具と同様にプラスチックをアップサイクルしたもので、Potato head よりもさらにアップサイクルの事例を見ることができた。非常にコンセプトやデザイン性が良く、アップサイクルの参考に何か土産にしようかと T シャツを手にとると、しっかりと付加価値が金額に乗っており、感心したものの 0 の数の多さに（1ルピア = 0.0095 のため、もともと 0 が多い）そっとラックに戻したことを反省している。

閑話 一日の視察を終えてみると、まだ当地に来て 24 時間も経っていないことに違和感を覚えるほど学びの多い刺激的な一日だった。

すでに日が暮れ、移動して夕食をバリ島で有名な中華料理屋で堪能した後はホテルに戻って疲れを癒すかと思いきや、ホテル近くのスーパーを覗いたあと、開いていた飲食店に入って二次会をスタート。すでに？バリのビンタンビールは水のような扱い。お酒と会話が進み、あっという間にラストオーダーの時間になった。後ろ髪を引かれつつホテルに戻った一行は、ロビーで解散したものの、ホテル内のラウンジバーに明かりが灯っているのを発見！吸い寄せられるように一時間に「おやすみなさい」といったメンバー全員が着席して深更まで飲み明かした。

10/28 日付変更線を越えて飲んだ一行だったが、そこはさすが真面目が取り得の日本人。全員が朝食を取って、チェックアウトを済ませ、8時半にはロビーに集合していた。

行き先はデンパサル北東、ギャニャールにあるプレシャスプラスチック製品製造会社「WEDOO」。聞き慣れない「プレシャスプラスチック（Precious Plastic）」とは、直訳で「貴重なプラスチック」を指す。一般的には、2013年にオランダの工業デザイナーである Dave Hakkens（デイク・ハケンス）が始めたプロジェクトで知られており、

プラスチックゴミの問題を解決するために活動するグローバルなコミュニティを形成している。

WEDOO ディレクターのバレリン氏は、インドネシアからカナダへと留学し、そこで NGO として活動する Precious Plastic に参加。コロナ禍でインドネシアに帰国し、そこで母国のためにとプレシャスプラスチック製品製造会社 WEDOO を設立した。

アーティスティックな作品を販売する店舗や開発中の建屋が並び通りを一本入ったところに位置する同社の本社工場には見慣れた機械が鎮座していた。それは Potato head に設置されていたプラスチックのアップサイクルのための機器であり、The Museum of Space Available で見たプラスチックのアップサイクル製品と同一のプラスチック板だった。

「アップサイクルの川を見ていたら源流にたどり着いた感じだ」とはある視察団メンバーの一言だが、非常に的を得ている。流暢な英語で次々に我々の質問に淀みなく答えていく彼女の姿を見て、気付けば皆、プラスチック関連の仕事でもしているのか？ というような空気感を生み出す。オフィスに入る手前で、屋根だけで壁もない、雑然とした工場で機械を組み上げるのを見て、一抹の不安がよぎったが、Precious Plastic やバレリン氏の想いを聞くうちにそもそも視点が違うことが分かった。

WEDOO は、「環境対応のために機械を導入しました」というだけの人に売りたいかと言いつける。そもそも同社に機械を依頼する会社のほとんどが、自社で発生するプラスチックをどうにかできないか？ という相談から始まる。バレリン氏はそのコンサルティングを行っており、顧客の状況に応じて機械も 3 名のエンジニアが設計からカスタマイズで製造している。比率的には機械製造 75%、アップサイクルコンサルタント 25% だという。

設計図から作成しているというが、多くは Precious Plastic がオープンソースコミュニティで公開する設計図をもとに開発し、また改善された設計図をコミュニティに戻すという通常の企業ではやらないようなことをやっている。正しいかどうかは分からないが我々の脳裏には『メイカーズ』という言葉が想起された。



バレリン氏の話に食い入る一行

WEDOO や Precious Plastic、そしてバレリン氏は機械を売ることが目的ではなく、ミクロ単位でプラスチックゴミの問題を解決しようとする信念がそこにある。

帰国後に Precious Plastic について調べたところ、「プラスチックゴミの問題は、SDGs の活動が広まったこともあり比較的認知度が高いにも関わらず、なかなか問題が解決されない。その理由の 1 つに、プラスチックをリサイクルするには巨大な設備が必要で、“個人ベースではリサイクルに関わりにくい”という現状がある。そんなプラスチックゴミ問題に、個人、地域レベルで関われるのが、『Precious Plastic』というプロジェクトだ」と唐津市で活動する Precious Plastic 唐津がホームページの中で謳っている。

ものづくりに携わるものとして、これからのグラフィックサービス業の一つの在り方を問い直す示唆に富んだ見学となった。

視察まとめ 一言で表すと、「バリには優秀な若者、人材が豊富だ」ということ。フジアカデミーの学生も Potato head の案内をしてくれた女性も The Museum of Space Available のスタッフも、そして WEDOO のバレリン氏も、誰と話しても目を輝かせ、自分の仕事に誇りを持っている姿がうかがえた。私達受け入れ側としては、行ったこともない異国で一人奮闘しようとする若者が安心して働き、また戻ってきたいと思ってもらえるよう意識、環境ともに整えていくことが必要だと感じさせる視察ツアーだった。

閑話 午前中いっぱい WEDOO で過ごした後、昼食を取り、時刻は昼過ぎ。帰国の便は夜ということで、最後に WEDOO と同じギャニャールにある Tegenungan Waterfall（テゲヌンガン滝）を見ることができた。階下に臨むテゲヌンガン滝を見て一瞬帰りの登りのことを思っただけ！ 足に乳酸が溜まるのを覚悟で滝壺まで散策した。滝壺はリゾート感満載で、川に水着で泳ぐ観光客。しかし、滝壺の横にプールが付いているのは、狙いが最後まで分からなかった。滝壺を眺めながら遊泳？

滝壺でマイナスイオンを浴びて徐々にひやりとしたが、帰りの登り階段で老廃物を追い出すようにテゲヌンガン滝さながらに汗をかきながら元の駐車場まで戻り、心身ともに整った。

夕方近くになり、バリで有名なビーチがあるクタに移動。怪しい日本語で飲み物を進め、座るように促す現地の客引きを華麗にスルーしながら、浜辺をゆっくり歩いたところで力尽きたのか、喉が渴いたのでレストランに入ると半数が「サンセットまで休憩」と腰を据えた。

クタは原宿の竹下通りさながらの観光地、商業地区で何の意図か、日本語で声をかけてくる現地の人が多かった。「反応したら負けだ」と思っていたが、ずらずらと通りを進む我々に「オウ！オトコマツリ」と声をかけられた時は思わず反応してしまった。誰だそんな日本語教えての。

たった 48 時間ほどの滞在だったバリだが、非常に中身の濃い時間を過ごした面々。充実感と達成感の中、少しこの貴重な時間を惜しむように呆然と日が沈むのを眺めて帰途へと着いた。



細かく砕いたプラスチック粉をプレートの上に慣らして並べ、圧縮し熱で溶解して固め、加工用のプレートを作成する



インボイス制度導入にあつての 請求書や領収書の対応について



10月1日以降、インボイス制度がスタートしました。この間、一部の支部より支部報等で広告をいただいている協賛会社様からインボイス No の問い合わせがあり、無い場合は本部のものを使えないかというご相談がありました。また適格事業者にならない場合、広告が出せなくなるというお話もあります。3年間の移行期間がありますが、大手企業の多くが適格事業者以外の団体、会社等との取引を中止する傾向にあります。非適格事業者に消費税込みの額を支払っても控除されないというのが主な理由かと思えます。

- 本部の現状の見解としましては
- 本部のインボイス番号の利用は、各支部の収入が一度ジャグラー本部に入ることになるため難しい。
- 各支部にて協賛各社様と相談の上、それぞれに対応方法を詰めていただきたい。
- 本部からも賛助会員様に配慮いただきたい旨を通知していく。

といった状況になっております。

また、支部運営の中で発生します請求書、領収書につきまして弊会監事を務めておりますマエサワ税理士法人の前沢寿博様に寄稿いただきました。

* * *

消費税にかかるインボイス制度が令和5年10月1日より開始されました。インボイスとは、「売り手が、買い手に対し正確な適用税率や消費税額等を伝えるための手段」であり、一定の事項が記載された請求書や領収書、納品書その他これらに類するものをいいます。

インボイス制度の下では、税務署長に申請して登録を受けた課税事業者である「インボイス発行事業者」（適格請求書発行事業者）が交付する「インボイス」（適格請求書）等の保存が仕入税額控除の要件となります。

ちなみに仕入税額控除とは、課税売上に係る消費税から

課税仕入に係る消費税を控除することです。消費税の課税事業者は、課税売上と課税仕入とで算出した消費税の差額を納税することになります。

またインボイスを交付できるのは、インボイス発行事業者に限られます。課税事業者でなければ登録を受けることはできません。逆に言えば、免税事業者であっても課税事業者になることでインボイス発行事業者に登録することは可能です。

インボイス制度がスタートして以来、ジャグラー地協・支部活動で請求や集金が発生した際の対応について、お困りの方も多いことと思います。そこで今回は、地協支部活動で想定されるインボイスへの疑問について、この場で回答してまいります。

1. 支部主催の懇親会で会員から会費を集めるので、支部名で領収書を発行したいのですが、その際にインボイス番号がないのでどうしたらいいかわからないのですが。

➡ そもそも支部活動は独自に行われており、ジャグラーが集金・請求に関与しておりません。支部はあくまでジャグラーとは別個の任意団体ですので、ジャグラーのインボイス番号を使用できません。そして支部は任意団体ですので、基本的にはインボイス番号を取得するようなことはないかと思えます（任意団体でもインボイス番号を取得することは可能ですが、ハードルは高いです）。

結論としては、支部が発行する領収書にはインボイス番号を記載できないということになります。こうなった場合、実際にどうなるかといえば、会員の皆様がお支払いになられた経費は今まで通り経費の扱いになることは変わりません。ただし経費と一緒に支払っていた消費税部分については今までのように全額を仕入税額控除できなくなりました。ただしインボイス制度導入にあたり部分的に仕入税額控除を受けられる経過措置が設けられており、

「令和5年10月1日から令和8年9月30日まで」は仕入税額相当額の80%
「令和8年10月1日から令和11年9月30日まで」は仕入税額相当額の50%

となっております。この経過措置は令和11年9月30日で終了するため、これ以後、仕入税額控除は受けられなくなります。

例えば、会員が支部参加費として10,000円の本体価格に消費税率10%の1,000円の消費税と合わせて11,000円を支払った場合、

「令和5年10月1日から令和8年9月30日まで」は支払った消費税1,000円のうち80%の800円だけ仕入税額控除ができます。そして、

「令和8年10月1日から令和11年9月30日まで」は支払った消費税1,000円のうち50%の500円だけ仕入税額控除ができます。

「令和11年10月1日以降」は1,000円の消費税を支払ったとしても仕入税額控除は一切できなくなります。消費税の金銭的インパクトは上述のとおりになります。

2. 地協総会参加費について会員へ請求書を発行したいのですが、その時の請求書はどのような形式を満たしていればよいのでしょうか。

➡ 1. で述べた通り、ジャグラーとは別主体で支部が支部活動を行い、地協が地協の活動を行い、あるいはジャグラー文化典の実行委員会がジャグラー文化典の運営を行っております。そしてこれら支部・地協・実行委員会がインボイス番号を取得することは上述の通りハードルが高いため、インボイス発行事業者に登録をすることはまずないと思われます。従って地協自身がインボイス発行事業者にならないので、当然にインボイス番号を請求書に記載することはできないこととなります。

会員からすれば1. のとおり経過措置の期間中は支払った消費税の一部を仕入税額控除できますが、経過措置の経過後は支払った消費税を全額仕入税額控除できなくなります。注意しておきたいのは、この経過措置期間であっても、請求書について一定の記載要件を満たした請求書でなければ、令和5年10月1日から令和11年9月30日までの仕入税額控除にかかる経過措置すら受けられなくなる可能性がありますので、請求書として具備しておくべき要件を満たしておく必要がございます。

「請求書に具備しておくべき記載要件」

- 書類の作成者の氏名又は名称
- 課税資産の譲渡等を行った年月日
- 課税資産の譲渡等に係る資産又は役務の内容（課税資産の譲渡等が軽減対象資産の譲渡等である場合には、資産の内容及び軽減対象資産の譲渡等である旨）
- 税率ごとに合計した課税資産の譲渡等の税込価額
- 書類の交付を受ける当該事業者の氏名又は名称

具体的に申し上げていくと、

- ①はサービス提供主体である支部名、地協名を記載する
- ②は支部活動や総会開催日を記載する
- ③は具体的にどんなサービスであったかを記載する（〇〇支部活動費として、総会参加費として、等々）
- ④様々な活動に対する費用を軽減8%と10%の税率ごとに税込金額を明記する
- ⑤支部や地協への支払いを行った会員の氏名や名称を記載する

ことが請求書に求められます。領収書の場合も同様の記載が求められます。

①から⑤の記載事項を確認していくと、今までの請求書や領収書でも満たしている事項が多いように思います。もし漏れがあれば令和5年10月1日以降の請求書、領収書については漏れていた事項を記載するようにご注意ください。

最後に「少額特例（一定規模以下の事業者に対する事務負担の軽減措置の概要）」についてお話をさせていただきます。

少額（税込1万円未満）の課税仕入について、インボイスの保存がなくとも一定の事項を記載した帳簿の保存のみで仕入税額控除ができます。これは取引先がインボイス発行事業者であるかどうかは関係なく、免税事業者であっても同様です。

ただし、この「少額特例」が適用されるのは、基準期間における課税売上が1億円以下または特定期間における課税売上が5千万円以下の事業者です。基準期間とは法人の場合は前々事業年度をいいます。特定期間とは原則として前事業年度の開始の日以後6か月の期間をいいます。

以上

ZXで、工程が変わる。働き方が変わる。
無処理CTPは、いま、新たなステージへ。

FUJIFILM
SUPERIA
ZX

より鮮明に、より早く、より強く。

定評ある有処理プレート「XP-F」と
同等の使いやすさと信頼性を、ついに無処理プレートで実現。
これまでの無処理化の次元を超える工程変革を実現し、
現場にも、経営者にも確かなメリットを提供する
次世代完全無処理プレート

SUPERIA ZX、誕生。



| SUPERIA ZX | Q |

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

Horizon

Change the focus

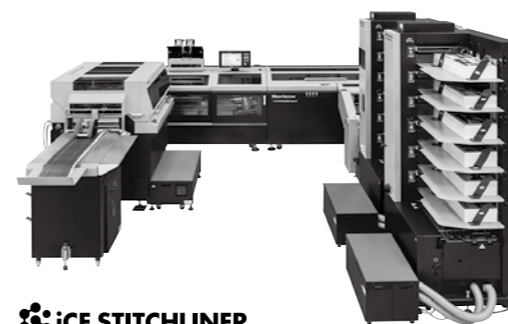
Connected をキーワードに製本工程の自動化を実現します。

iCE Series は、お客様へさらなる高付加価値を提供することを目指した次世代型商品群です。
ユーザーフレンドリーなインターフェースで作業性を向上させ、安定した生産性と自動化を高次元で追求しています。
さらに、ワークフローシステム「iCE LINK」との連携により、先進的な作業環境を構築できます。

ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム
iCE STITCHLINER Mark IV

自動化と製本品質の向上を追求

多品種少量生産に対応するために、全自動化することでセット替えの時間を極限まで短縮しました。筋入れ機構や突き揃え機構、折り部、針金の長さ調整、断裁前の位置調整など、各工程における高精度な調整と加工技術で高品質な製本を実現します。



iCE STITCHLINER

無線綴じ機
BQ-500

作業効率と製本品質が向上

セット替えの高速化により、小ロットや1冊ずつ厚さが異なるバリエーション製本時にも高い生産性を実現します。また、ホリゾン独自のデリバリー機構により、厚い自身のPUR製本においても背にゆがみのない高精度な仕上がりを実現します。



iCE BINDER

紙折機
AFV-566FKT / AFV-564FKT

生産性と折り品質が向上

ナイフ折り時の最適な給紙間隔をリアルタイムに計測演算し、最高の処理速度を引き出すなど、ナイフストップの脱着作業を含めた様々な設定を自動化し、幅広いアプリケーションに迅速に対応します。



iCE FOLDER

三方断裁機
HT-300

高生産性と自動化を追求

一枚の断裁刃で天地、小口の三辺を断裁します。断裁前と断裁後の寸法をタッチパネルに入力することで設定が完了し、最高300サイクル/時で高生産性を実現します。冊子厚さの自動測定や、断裁角度の微調整など、自動調整機能により、精度の高い仕上がりを実現します。

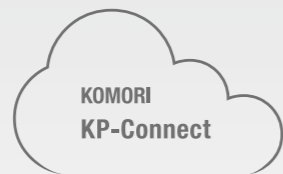


iCE TRIMMER

fb.me/Horizon.sns

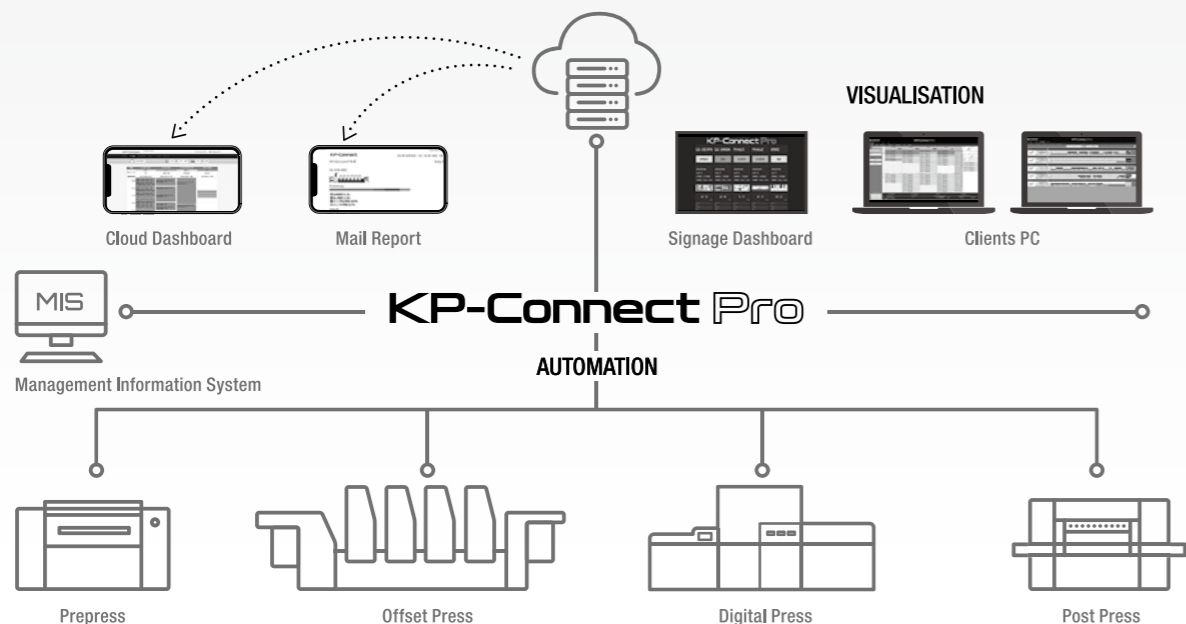
ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03-3863-5361(代) FAX.03-3863-5360
東京支社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL.03-3652-7631(代) FAX.03-3652-8083
京都支社 〒601-8206 京都府京都市南区久世大数町510 TEL.075-933-3060(代) FAX.075-933-4025
福岡営業所 〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17 TEL.092-626-8111(代) FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター 〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31 TEL.022-782-2821(代) FAX.022-782-3068



CONNECTED AUTOMATION

— 印刷DX 新しい世界への扉 —



「データの一元化」「見える化」「整流化」「自動化」



『KP-コネクトプロを軸に省人化・省力化技術を搭載した機械や生産システムをつなぐことで、お客様の生産性を極大化していく』概念です。オープンな環境を提供することで、業界の様々なメーカー・ベンダーと連携、共創していきます。高度な自動化機能を搭載した最新機リスロンGX/Gアドバンスモデルとの併用で、さらなる効果を発揮します。

MADE IN JAPAN WITH STATE-OF-THE-ART TECHNOLOGY

株式会社 小森コーポレーション
〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋 3-11-1 TEL.03-5608-7806
www.komori.com

コネクテッド・オートメーション
についての詳細はこちら



https://www.komorisolutions.com/ca/ja/

日印産連の活動ピックアップをご紹介します。

JFPIREPORT冊子にはさらに様々な活動を掲載しておりますのでぜひ併せてお読みください。

JFPIREPORT

ダイジェスト版

各タイトル横の番号ごとに、WEBページで詳細がご覧いただけます。右記のQRコードよりご確認ください。



2023年9月印刷の月 印刷文化典を開催

9月13日(水)、東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」にて開催いたしました。2019年以来4年ぶりに、講演会・懇親会も開催し、本来の「9月印刷の月」記念式典を行うことができました。

講演会は、ダイヤ精機(株)代表取締役の諏訪貴子氏を講師に迎え「町工場の星、ダイヤ精機(株)代表取締役諏訪貴子氏に学ぶ新経営改革」のテーマで講演いただきました。

今年は4年に一度の印刷文化典の年に当たり、日印産連表彰は最高賞の印刷文化賞3名、印刷功労賞13名、印刷振興賞18名、特別賞1団体1名。環境優良工場表彰は12工場の表彰式を行いました。

表彰式後は4年ぶりとなる懇親会が行われ、交流を深め合う賑やかな宴となりました。



印刷文化賞受賞の諸氏

2023年9月印刷の月 印刷文化典



やかな宴となりました。

挨拶する北島会長

●詳細はQRコードページにて以下の番号よりご参照ください。

- [1-1] 2023年「9月印刷の月 印刷文化典」記念式典の様子
- [1-2] 2023年度日印産連表彰受賞者のご紹介
- [1-3] 第21回印刷産業環境優良工場表彰について



環境優良工場 経済産業大臣賞

2023グリーンプリンティング(GP)認定制度3賞決定

〈GP環境大賞・GPマーク普及大賞・GP資機材環境大賞〉

表彰式は10月18日(水)にDNP左内町ビル・ホールで執り行いましたので、その様子はJFPIREPORT186号にてお届けいたします。

●詳細はQRコードページにて右の番号よりご参照ください。 [2] 2023グリーンプリンティング認定制度3賞決定

じばにむ 地方創生事業好事例紹介じゃぱにうむレビュー [3]
「ハイブリッド営業」で新たな価値の提供に挑むCreative Challenger 大平印刷株式会社(京都府)

●ワンストップで「都市農業」の情報発信をサポート ●「ハイブリッド営業」で取り組む地域経済活性化

知ってよかった! 連載第3回
知的財産あるある 知ってよかった! 知財あるある [4]

制作委託したイラスト等を異なる媒体に利用して大丈夫? ~制作委託物の著作権の帰属があいまいなままで起こりがちなトラブルとは?~

得意先向けの印刷物等の制作にあたり、イラストや写真の制作をデザイン事務所等に委託した場合の権利帰属の留意点を解説します。

●その他の活動などについてもWEBページに掲載、更新しておりますので、ぜひご覧ください。 [5]

印刷用語集

聞きなれない専門用語も多い印刷用語をカテゴリ別や50音で探すことができ、わかりやすく解説しています。

「印刷って、何?」が、楽しくわかる
ふりんとびあ

印刷産業 Monthly Report

各種統計データなどを基に、印刷業の動向、国内経済動向から得意先市場の動向、及び印刷に関わる資機材業の動向を毎月末に公表しています。

出版物のご案内

印刷会社のみなさんに役立つ情報を掲載した小冊子をご購入いただけます。



大臣賞受賞 4 作品に

賞金 3 万円が

授与されます

4 部門

募集しています

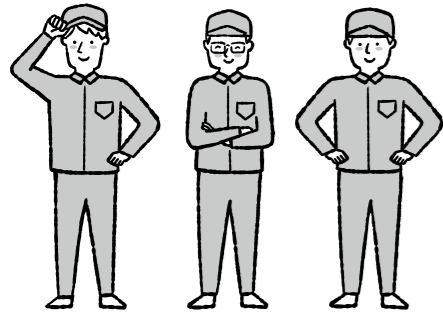
十今年もやります、名刺フェスティバル

ジャグラ作品展



応募期間

2023.12.1[金]~2024.3.31[日]



業務用印刷部門

研究報告書、文集、記念誌、機関誌、便覧、手引書、名簿、会議資料、大会等資料、会報、年報、リスト、パーソナルユース(年賀状、レターヘッド、ハガキ、名刺)など。

開催要項

審査対象

作品は 2023 年中に完成したものに限り(2023 年 1 月 1 日~12 月 31 日までの作品)

審査方法

審査基準に基づいて採点し、順位を決定
◆企画 ◆編集 ◆造本設計 ◆文字組版 ◆仕上げ
◆開発・開拓の狙い

応募方法

応募作品に申込書を添えて、本部までご送付ください。申込書はジャグラHPよりダウンロードできます。

宣伝印刷部門

カタログ、ポスター、ダイレクトメール、リーフレット、チラシ、POP、パンフレット、カレンダー、PR 誌、各種案内書など。



優秀作品には大臣賞を授与!!

表彰式は文化典広島大会にて

「ジャグラ作品展」とは
日本グラフィックサービス工業会の技術力向上やマーケットへのアピールを目的とするもので、ジャグラの前身である日本軽印刷工業会が、社団法人を設立した1966年より開催されている歴史あるコンクールです。

Table with 2 columns: 自知分たちのもこの作り

出版印刷部門

単行本、文芸書、教科書、学術参考書、専門書、法規集、写真集、雑誌、ハンドブック、自費出版、定期刊行物、復刻版など。



芸術に触れる

開発・開拓部門

新商品、新機器・新手法・新技法による作品、販促成功例、活路開拓・需要拡大商品、未来ビジネスへの足掛かり商品、自社企画による印刷物、印刷物以外の商品、間接的に生産された印刷物、ソフト・サービス CD-ROM 等のマルチメディア。

未来へチャレンジ!



ジャグラ作品展出品申込書

No.

事務局記入欄

※ 発注者に出品の了解を得て、ジャグラ作品展に申し込みます

申込日 年 月 日

Table with 4 columns: 会社名, 住所, E-mail, 担当者, 支部, 電話/FAX

事務局キリトリ線

作品名 (記入必須)

No.

事務局記入欄

[1] 審査にあたって特に評価して欲しい項目に○印をしてください

【記入必須】

A. 企画内容

企画の視点・狙い

B. 編集

全体の構成・取材。執筆等

C. 造本設計

書籍全体のデザイン・製本・用紙選択の意図等)

D. 文字組版

難易度が高い・禁則ルール等

E. 印刷の仕上がり

印刷手法等

F. 開発・開拓

新規開発手法・開拓の視点・狙い等

G. その他 ()

[2] 希望する部門に○印をしてください (希望通りにならない場合もあります) 【記入必須】

Table with 4 columns: 出版印刷物部門, 宣伝印刷物部門, 業務用印刷物部門, 開発・開拓部門

↓ 以下任意記入事項 ↓

□ 製作工程についてお教えてください (書ける場合にご記入及び○をつけて下さい) 【任意】

Table with 3 columns: 印刷・製作方法, 後加工, 対象者

□ アピールポイント (自由にご記入下さい) 【任意】

RICOH BUSINESS BOOSTER

私たちは“仕事を創る”、“仕事を回す”、“仕事が見える”の3つの視点から、印刷事業者のビジネス拡大をさらに支援するための活動『RICOH BUSINESS BOOSTER』を推進しています。

お客様ごとの課題に真摯に向き合い、時には共創活動を通じて新たな価値を生み出しながら、それぞれの解決策を導き出していきます。

印刷事業者の“真”のパートナーとして、前例にとらわれない新たな答えを創りだす。

『RICOH BUSINESS BOOSTER』は私たちリコー日本の新たなビジネスコンセプトです。



Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントの
新しいサブスクリプションサービス
豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール



TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の「昭和謄写堂」として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション&リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで

SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
<http://www.lithmatic.net>

SHOWA

いろいろなコトは モトヤにご相談ください!!

MOTOYA



琴音 愛

※詳しくは…



皆様と共に歩み続けるモトヤは、
皆様のお困りごとを解決する
「コトウリ」のご提案を続けます。

そして、 SDGsのゴールの実現に 協力していきます。



— 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」への取り組み —

印刷現場の環境改善を考える



環境対応資材

ECO no MISTは、
お客様と共に「環境」と「価値」を考える
モトヤの資材ブランド。
消耗品による環境改善を実現します。

※詳しくは…



※詳しくは…

多くの人へ情報やイメージを伝えていく
美しく、効果的に。
社会への負荷も可能な限り抑制していく
サインシステムの枠を超えた、ルーファス。

人に、社会に、ルーファス



内照式ファブリックサイン

印刷業界の人材採用をお考えの企業様

◇社員紹介 ◇紹介予定派遣 ◇人材派遣 ◇業務委託などのご相談は…

モトヤ キャリアエージェント部へ

大阪 ☎(06)6358-9124 / 東京 ☎(03)3523-8719

人材派遣業 派 27-030254 / 人材紹介業 27-ユ-030174



印刷のソリューションプロバイダー



大阪 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-8 ☎(06)6358-9131(代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡

アプリも

カードも



店舗集客を加速する顧客管理ツール

大阪本社 ☎06-6351-1766 ♪ 大阪市都島区片町1-5-13 大手前センチュリービル5F
東京営業所 ☎03-6228-3900 ♪ 東京都中央区八丁堀 2-20-9 八丁堀FRONT 1F

研美社



社長がたまに踊る
Instagram



雑学コラム⑫ 野口聡の

47都道府県のお話 (その11: 沖縄県)

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東
グラ文京支部のアクティブ・野口です。

段々冬が近づいて寒くなってきましたね。今回は暖かい県のお話
でもしましょうか。

という事で今日は沖縄県のお話です。本日も宜しくお願いしま
す。

まず2つの数字、「58」と「507」を書いてみます。県民の
方なら御存知であろうと思います。さて何の数字でしょう？

58の方は「日本で1番長い〇〇」、507の方は「日本で1
番数字が大きい〇〇」です。地元の方以外でこの数字だけ見て
何の意味だか分かる方は相当ドライブが好きな方か地図マニア
の方でしょうか。

〇〇の正解は「国道」です。この58号線、鹿児島市と那覇
市を結んでいます。「？」と思った方もいらっしゃると思いますが、
日本の国道には「海上国道」という定義があり、海の上
にも定義として国道が走っていることがあります。皆さんにピ
ンと来るのは国道16号(東京湾フェリー)や愛知の42号(伊
勢湾フェリー)でしょうか。この58号は鹿児島市から種子島・
奄美大島をフェリーで経由し、本島を実路で南北に縦断する総
延長880kmという大動脈なのです。

そしてこの58号、日本の2桁国道では最も数字が大きい国
道になります。そう、日本には国道59～99線はありません。
面白いでしょ。

今度は507号線のお話をしましょうか。国道507号線は糸
満市を起点にして豊見城市を経由して那覇市を結ぶおよそ30
km超の道路です。沖縄本島の最南端にあり、日本の国道の中
で最も大きい数字が割り当てられています。507の数字が割
り当てられたのは丁度30年前の1993年という事で国道とし
ては比較的新しい方に入ります。因みに本当に日本最南端(最
西端も兼ねる)の国道は石垣市にある390号線です。

3桁の国道にも欠番はあって、例えば国道100号線は現時
点ではありません。じゃ何でそんなに欠番があるのよ、って話
ですが、これは日本の道路法という法律に関わってきます。そ
の中で地理的に重要な都市を連絡すると決められた道路を「一
級国道」と呼び、その他の国道を「二級国道」と分類していま
した。そして一級に1～100まで数字を振り、二級には101
～の数字を割り当てたのです。ですので一級がもっとあったら
欠番も減ったかもしれませんね。

結局現在では国道は法改正により一級・二級関係なく全て名
称を「一般国道」に改称されています。それでも数字を詰めた
りしないのはなんか面白いですよ。

今日はこの辺で筆を置きます。東京から東九フェリーと鹿児
島フェリー使って沖縄へ、という旅行も悪くないですね(4日
程かかりますが)。

最後に今月の問題です。

問題：今年のプロ野球は阪神タイガースがアレして幕を閉じま
した。阪神と云えばオマリーも歌った「六甲おろし」で
すが、実はこの曲の正式なタイトルは「六甲おろし」で
はありません、ではなんというタイトルでしょう？

(正解は29ページ)

シリーズ 需要創出 を考える②7

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラ会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探るシリーズ。今回は令和4年度ジャグラ作品展受賞企業の中から、福島県支部のキング印刷株式さんの事例をご紹介します。

令和4年度

事例 28 ジャグラ作品展 業務用印刷部門 厚生労働大臣賞

CAFE OHZAN 様 2022 クリスマスアドベントカレンダー

キング印刷(株) 代表取締役 伊東邦彦



令和4年度のジャグラ作品展において業務用印刷部門・厚生労働大臣賞をいただいた「CAFE OHZAN 様 2022 クリスマスアドベントカレンダー」は、当社にとって分水嶺ともいえるようなニュースでした。高い評価をいただいたこと、深く感謝申し上げます。

分水嶺と申したのは、当社でのジャグラ作品展への考え方、思いがこの40年あまりの中で、自社の方向性の変容と共に大きく変わってきたためです。私もキング印刷とジャグラ作品展へのかかわりを時間と共に話していければと考えます。

当社の初代社長 伊東靖浩の時代は今よりもっと激動の変化の時代でした。昭和32年、謄写版で社業をスタートした当社は、活版、和文タイプ、写植、電算写植と変化を遂げます。印刷もオフセット印刷となりカラーの印刷機の導入、ダイレクトスキャナの導入と、ここまでの16年で大きな変貌を遂げます。昭和46年のクロスフィールド社、マグナスキャンの導入は地方の印刷会社としてもかなり早期のニュースであったはずで、「新しい技術は新しい機械の導入で」という高度成長期さながらの変化をそのまま体現した歴史でした。

ここに今までなかった新しい波が訪れます。デジタルという革命でした。Macintosh DTPの導入、フィルムセッタの導入は平成元年、デジタルのビデオ編集は平成7年にスタートします。

印刷物の価値はどこにある？

激変するメディアの変化に、社内の価値観は混乱します。価格が下がり続ける印刷に、価値を付加することができない混乱の時代に突入し、何をもち「らしさ」を出すことができるのかに惑う時代だったように思います。この時期、ジャグラ作品展、当時の名を軽印刷文化典作品展への応募は単なる義務として捉えていました。ここまで価値が下がり続ける印刷物に未来はない。作品展に応募するような仕事はないよね、というのが当社内にあったのは事実です。

平成5年の労働大臣賞の受賞から・・・

そんな中で義務応募していた作品が平成5年の作品展で労働大臣賞をいただくこととなりました。残念ながらどんな印刷物で賞をいただいたのかも記録はありませんでした。真面目に作品展を考えていなかった証拠なのかもしれません。しかしながら「きちんと仕事に向き合えば表彰していただける」と当社内で確認をした次第です。

努力すれば作品展で受賞できることを学んだ当社は、翌年の平成6年にはさらなる受賞を目指して持てる技術を集結させることとなります。「現代の染織－素材と技の美」布地の展示会の図録集でした。平面でしか表現できない布地の繊維まで表現するために、4×5インチで撮影されたリバーサルフィルムをクロスフィールド社のドラムスキャナ、マグナスキャンで300lpiで分解をし、デュボン社のクロマリンという色校正を行います。これをハイデルベルグ社のスピードマスター102Vで刷りあげるといものでした。当時の手によるアナログ製版では300lpiはほぼ限界値であり、微細な見当ずれが写真再現を破壊するという大きなチャレンジとなりました。

この作品は当時の平成6年度軽印刷展作品展で通産大臣賞を受賞することになりました。

思えばこれが当社のアナログの印刷工程の最後の作品でした。今見返しても、この印刷物の品質レベルを超える作品を造り出していないように感じます。当社にとってはひとつの時代の終焉でした。この年、ドラムスキャナはデジタル対応のものに買い替え、フィルムセッタも菊全判対応となり、手作業での集版はデジタルに変わりました。つまりDTPでの工程に切り替わることになるのでした。

受賞できなかった作品が示すもの

全てをデジタルの工程に切り替えたキング印刷は、翌平成7年に作品展に対する新たなチャレンジを開始します。「阿武隈川舟運図」歴史資料館に収蔵される巻物の絵を印刷物として再現するものです。巻物を多くのブロックに分け、4×5インチのリバーサルフィルムで撮影をする。それをドラムスキャナでスキャンし、データに落とす。膨大な数のデータの一つ一つ検証して、Photoshopを使用して写真間の色を合わせていく。どこで切って貼り合わせるか、大きさと位置を修正する。カメラのレンズ収差を修正していく。こうしてデータを加工するのに半年を費やす状態でした。増えていくデータを保管するための容量が足らず、当時決して安くはないハードディスクを買い増していく。トンボばかりでなく、絵柄で合わせていく印刷。精度の高い断裁をテストし、紙を表裏で互い違いに貼りながらブロックを合わせていく試作を行う。

こうしてできあがった本は、全長11メートルを超えるジャバラ折の本になりました。遅いパソコンでの作業は当時のオペレータを泣かせたものでした。今、この瞬間でこれ以上の印刷物を作るところはないだろう。そして応募した平成7年の作品展。この作品は受賞することができませんでした。

この作品を認めてくれないなんて・・・とがっかりした気持ちになったのは事実です。ただ、この作品が受賞できなかった本当の意味を知るのはもっとずっと後でした。

多様化と変容と。印刷の価値の混乱の時代

はからずしも平成7年ごろは印刷の出荷額がピークになった年だと記憶しています。ここからデジタルでの印刷工程が普及し、受注価格の低減を求められ、印刷業界は縮小に移行します。当社も採算性が低下し、チャレンジに相当する技術的な進歩が停滞を始めます。市場の不透明さから設備投資は極限まで抑えられ、会社はじわじわと衰退を始めることとなりました。こうした状況から、ジャグラ作品展への応募は停止しました。作品展に応募するような仕事を創出することができなくなってしまったのです。

思い出したようにジャグラ作品展への応募をする中で、

平成13年、「風少女Ⅱ」で経済産業大臣賞をいただきます。ところがたいていのように作業した物件がなぜ第一席の賞を頂けるのかを理解しませんでした。この印刷物の何を評価していただいたのかわからないままだったのです。私たちにとっての印刷の価値はこの段階で一般的な視点と大きく乖離し始めていたのかもしれない。

平成14年、キング印刷は大きな経営危機を経験し、停滞は下降線へと移行します。事業開発のモチベーションを失った当社は長い低迷期に入るとともに社長の交代がありました。私、伊東邦彦への交代でした。明確な経営ビジョンを持たず、未来を示すことのできない経営者は会社の将来をさらに混乱に導いてしまいます。今考えると「何もできなかった」のではなく、「何もしなかった」暗黒の時代でした。

アポカリプスを超えて

平成20年のリーマンショック、平成23年の東日本大震災を超えて会社の規模も売上も3分の1にまで縮小します。災禍ののちに当社は初めて企業理念をつくり、経営計画を作り、開発計画を作ることとなりました。杜撰な経営でした。災厄でボロボロにならなければ気がつけなかった無能な経営者でした。

震災の3年後、社業の柱とすべく新事業へのチャレンジが開始されました。VOCを含む酸化重合型のインキとスプレーパウダーを全撤廃し、従来の印刷機を搬出し、全機種をLED光源によるUVオフセット印刷機に入れ替えました。刷版は無処理版もしくは水なし版に変えました。オフラインの検査機を導入しました。この設備投資と共に将来の事業の柱を「小ロットの高級パッケージ・紙器」と定め、基礎からのチャレンジを開始しました。紙器の形成に不可欠な、抜き機、ブランキングマシン、箔押し、PP貼り、両面テープ貼りなどの加工機を導入しました。得意先の要求に応えられるように、大型トラックを導入し、自社便での納品を始めました。会社の目的は拡大ではなく、充実であること。大ロットを捨て小ロットを主力とすること。売上ではなく、利益を重視すること。

激しすぎる変化に対応できない社員も多く現れました。しかし、この変化の先にしか自らの未来を見ることはできなかったと思います。このチャレンジは成功だったのか否かはまだ答えは出ていません。またも予期せぬ感染症問題で社会の変化が私たちの予想を遥かに超えてしまったためです。



CAFE OHZAN 様
2022 クリスマス
アドベントカレンダー

ジャグラ作品展への応募

パッケージ・紙器へのチャレンジを始めたことで、あらためてジャグラ作品展への応募への欲求が生まれ始めました。「自分たちが初めて作る印刷物」が生まれたためです。自分たちの仕事の成果を見てほしい。そうした欲求でした。ただこれには一つ問題がありました。商業印刷物や書籍印刷においては、それを頒布することに価値が発生します。それに対し、パッケージ・紙器の価値は、内容物である商品そのものであり、印刷物はそれを助長させるものでしかありません。未販売の商品のパッケージを先に公開することを禁じられます。これがジャグラ作品展への応募にストップをかけました。

ところが長くお客様と話をしていると特殊な価値を要求される場合が出てきます。曰く「商品の価値を爆発的に上げ、商品の顔となるパッケージを作れ」。こうなると商品とパッケージの関係は逆転し、公開が許されるようになります。

「パピヨン ドゥ ギンザ 化粧箱 2種」令和3年のジャグラ作品展で印刷タイムス賞をいただきました。厚紙へのベタの直接印刷、疑似エンボス、金箔押し、エンボス・デボス、型抜き、両面テープ貼り、組立をすべて自社内で行い、スピードと品質管理を達成しました。パッケージ自体の単価も商業印刷時には考えられないほど高額でしたが、中に入るシャンパンの単価は●●万円であり、「お安く作ってくれてありがとう」との声をいただいたのでした。

ジャグラ作品展の「審査の価値」を初めて理解した瞬間でした。前述の「受賞できなかった作品」の価値は、作り手側、印刷会社の自己満足の技術の価値を表現したものでした。本来のジャグラ作品展は、「クライアントやユーザーが感じる価値を審査するもの」だったのです。この意味で作品を見るならば、作品展で評価されるのは、きれいなカラー印刷であったり特殊な仕様であったりといった派手な見栄えだけでなく、書籍や名刺であれば文字や配置の美しさ、企画ものであれば得意先の満足度、便利さ、受注の経緯や問題解決、時にはスピードまでも「得意先の満足感」、そして「価値」として捉えられるものだと思います。これから印刷会社が作り上げる製品は多様化

し、印刷と言う概念をも飛び越えてくるでしょう。この時のジャグラ作品展がどのような審査をして、どの作品に賞を与えるかは、私たち印刷企業の将来

を指し示すものになるであろうことが予測されます。ここに自社の製品を応募し、賞をいただくということは、自社の開発能力や得意先満足度向上を裏付けるものであり、ぜひとも積極的に応募すべきものと感じています。

令和4年度ジャグラ作品展 業務用印刷物部門 厚生労働大臣賞 「CAFE OHZAN 様 2022 クリスマスアドベントカレンダー」

この作品の得意先から与えられたテーマは、「中のお菓子を食べてしまっても捨てられない箱を作れ」です。これは私たちにとって「パッケージも商品だ」と言っていることと同じです。商品のPRの意味を含めて作品展への応募の許可をいただくことができました。11月の発売に向けて、春からデザインが開始されます。毎年デザインが変わるので、一年中この仕事と向き合っています。非塗工系の厚紙への印刷、金箔押し、型抜き というシンプルな工程で、最大の商品価値を目指します。奇をてらった仕様としないことからデザインの厳しさは群を抜きます。印刷自体は決して特別なものではありません。開けても開けても楽しいものが出てくるというサプライズがこの作品の価値と言えます。ジャグラ作品展でこれを評価いただいたことは、審査の目が決して印刷屋の目ではないことを示しているものと思います。

この作品の受賞に関しては、誰よりも喜んでいただいたのはお客様でした。当社の営業にとっても、デザイナーにとってもお客様に喜んでいただいたことは何よりもうれしい事であり、日々の励みになっています。ジャグラ作品展での受賞がお客様との関係も良化させてくれる、思わぬ副産物なのでした。

得意先の立場で考える

社長が社員に馬鹿の一つ覚えのように話す常套句です。ところがこの意味を正確に理解し、実践するものは少ないというのが本音だと思います。経営方針も違う、規模も違う、作るものも違う。今、印刷会社はありえないほど多くの選択肢の中から自分たちの道を選ばなければならないという岐路に立たされているのだと思います。ではどの道が正しいのか？その答えは私たちのお客様が握っています。だとすると、どれほどお客様との対話を繰り返し答えを探っていくのか。答えを掴み、解決する。それが印刷会社のチカラになるものだと思います。

平成4年度ジャグラ作品展 業務用印刷物部門 厚生労働大臣賞 に選んでいただき、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

業界の動き

関連団体

環境大賞表彰式を挙行 文伸、あさひ高速印刷が受賞 日産産連

(一社)日本印刷産業連合会は10月18日、東京・市ヶ谷のDNP左内町ビル・ホールで、グリーンプリンティング(GP)認定制度の2023年度「GP環境大賞」、「GPマーク普及大賞」、「GP資機材環境大賞」の表彰式を開催しました。

環境大賞の該当企業が今回ありませんでしたが、ジャグラからGPマーク普及大賞・オフセット印刷部門で、(株)文伸(東京・三多摩支部)が、準大賞であさひ高速印刷(株)(大阪府支部)がそれぞれ表彰されました。

表彰式では、GPPR大使を務める放送作家の小山薫堂氏と「デザインのひきだし」を発行するグラフィック社の津田淳子編集長によるトークショーも開催され、津田氏の印刷に対する強い想いが語られました。



GP推進部会長を務める興栄社の菅野様 ジャグラから文伸様、あさひ高速印刷様が受賞

ジャグラ

岡本会長と交流会 本部、支部活動で意見交換 ジャグラ新潟

新潟県支部は11月8日、新潟市の海彦で理事会を開催し、併せて本部より、岡本会長をお招きして交流会を実施しました。岡本会長からは今年度の本部事業活動について説明があり、それを受けて支部の状況や各社の課題、要望が平田大輔支部長らから語られました。



新潟県支部と岡本会長が交流

書籍紹介

「印刷白書 2023」を発刊 創注から連携戦略へ JAGAT

(公社)日本印刷技術協会(JAGAT)は、『印刷白書 2023』を発刊しました。印刷白書では、印刷産業の現状分析から印刷ビジネスの今後まで幅広く取り上げています。印刷・同関連業界だけでなく広く産業界全体に役立つ年鑑とするため、社会、技術、産業界全体、周辺産業というさまざまな観点から、ビジョンを描き込み、今後の印刷メディア産業の方向性を探っています。2023年版では、「第5章 印刷産業の経営課題」の中で、SDGsや、地域活性化、経営管理、デジタルマーケティング、労務管理に加えて、印刷DX、AI活用などの項目も追加しています。また、印刷メディア産業に関連するデータを網羅し、UD書体を使った見やすくわかりやすい図版を多数掲載。JAGATオリジナルデータを充実させた内容となっています。

◆内容

- 第1章 Keynote 創注→連携戦略
- 第2章 印刷産業の動向
- 第3章 印刷トレンド
- 第4章 関連産業の動向
- 第5章 印刷産業の経営課題
- +巻末資料

◆体裁

A4判 128ページ

◆価格

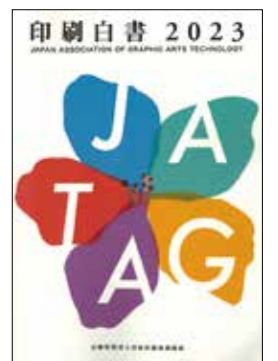
9,900円(税込)

※JAGAT会員価格あり

◆購入方法

JAGATホームページから

https://www.jagat.or.jp/cat10/cat10-4/book_order



【訂正・お詫び】

GS11月号「SPACE-21 全国協議会九州大会 in 熊本」で誤りがございました。
p.6 左10行目
誤: 早川順平実行委員長 正: 早川慎平実行委員長
お詫びして訂正いたします。

月刊グラフィックサービス リニューアルへの取組について

ジャグラ広報委員会 機関誌担当 東海林 正 豊

昨年度より広報委員会メンバーに任命いただき、機関誌「月刊グラフィックサービス」の企画・構成を担当させていただきます。当初からの目的である機関誌のリニューアルを他のメンバーとともに進めている最中ではありますが、これまでの取組をまとめてみました。是非ご覧いただき月刊グラフィックサービス発行への更なるご理解と、より魅力ある内容にするためのご意見をいただけますと幸いです。

■ アンケートの実施

リニューアルを進めるにあたり、最初に行ったのが会員の皆様へのアンケートでした。これまで「読まれていない」と言われてきた機関誌が、かなりの確率で目にしてもらっているという結果を得ることができ、特に興味深かったのが本部から送るプッシュ媒体「機関誌」「メルマガ」「FAX」については、ほぼ読まれているという結果でした。中でも紙メディア「機関誌」「FAX」については80%超の高確率で目にしてもらっています。工夫次第でジャグラBBや公式HP、また現在開発を進めているアプリとの連携も不可能ではないことが分かりました。

■ 発行趣意の策定

私が機関誌の担当を拝命して一番はっきりさせたかったのが「なぜ機関誌を発行するのか」という明確な理由でした。昔からやっている、ないとおかしい、そんな漠然とした理由ではなく、発行意義を定義づけることで掲載内容の充実や見る方の興味喚起が促進されると考えたからです。策定するにあたり参考にさせていただいたのがおよそ30年前「軽印刷→グラフィックサービス」に変わった際に定められた「業界理念」でした。これは現在になっても全く色あせることなく、明快にジャグラの在り方を示しています。

以後指針として忘れることの無いよう、毎号表2に掲載しています。

■ 制作・印刷体制の変更

長きにわたり機関誌を発行することができたのは藤尾泰一氏の存在あってこそでした。藤尾氏は89年日本軽印刷工業会(当時)に転職され、97年までジャグラ職員として広報・業界CIを担当し、その後編集者として独立。

2010年からは本誌制作スタッフとして編集を統括されてきましたが、残念ながら本人の要望で編成メンバーから離れることとなり、それを機に制作と印刷業者を公募し現在はジャグラ会員企業によって発行するに至りました。これにより会員で創り上げる体制がより強固になりましたが、その難しさも同時に毎号思い知ることとなり、また上記アンケートの実施や発行趣意の策定も同氏がなければ成しえませんでした。藤尾氏の偉大さに敬服するとともに、この場をお借りしてこれまでのご功績に深い感謝の意を表します。

■ “顔が見える” 表紙への変更

発行趣意を策定し制作体制も変更したタイミングで表紙を会員の皆様の“顔”を掲載するようにしました。これは発行趣意にある人間交流スペースを構築し会員をネットワーク化することで情報ターミナルになること、を具現化したものです。

掲載当初は思わぬ反響をいただき、またご指摘もいただきました。その反省点を活かしながら今後も継続していく予定です。掲載依頼があった際は何卒ご協力をお願いいたします。

■ これからの在り方

冒頭でも述べた通り、この月刊グラフィックサービスの存在意義はまだ高いと感じています。時代はDXはじめICT化社会へとより変貌していきますが、それらと連携することにより新たなステージへ向かっていけると考えます。

それにともないリニューアル内容もより進化していく予定です。もしかすると“完了”はないかもしれませんが、ジャグラBBそしてアプリとの連携は業界全体の理想となる可能性もあり私個人としても楽しみです。

年末にあたり、これまでの取組を振り返らせていただきました。

皆様よいお年をお迎えください。そして来る年も月刊グラフィックサービスをご覧くださいませよう願っています。



事務局日誌と今後の予定

最新情報はHPでご確認ください

11月の事務局日誌

- 1日 Pマーク現地審査(福島) →並木、今田
- 6日 広報委員会(Web会議)
- 7日 日印産連 知財部会(Web会議) →田中専務
サステナブル委員会(Web会議)
Pマーク現地審査(群馬) →並木、今田
- 8日 業態進化委員会(Web会議)
- 9日 MIS研究委員会(本部)
- 10日 理事会(東京ドームホテル)
全国協議会(東京ドームホテル、11日)
- 11日 自費出版文化賞表彰式(アルカディア市ヶ谷)
- 13日 SPACE-21 幹事会(Web会議)
日印機協総会(如水会館) →原田副会長、田中専務
- 14日 ジャグラコンテスト委員会(Web会議)
- 15日 日印産連ステコミュ(Web会議)
page 出展社説明会(JAGAT)
- 16日 IGAS2026 事務局会議(日印機工)
- 20日 作品展委員会(Web会議)
- 21日 DTP教室運営委員会(Web会議)
Pマーク現地審査(愛媛) →並木、今田
- 22日 地域活性化委員会(Web会議)
- 27日 CSPI 定例会(Web会議)
- 28日 業態進化委員会 Canva セミナー第2弾(Web)
- 29日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会(本部)
- 30日 生産性向上委員会(Web会議)

12月のスケジュール

- 1日 Pマーク現地審査(栃木) →並木、今田
日印産連 GD プロジェクト(日印産連) →田中専務
- 5日 Pマーク現地審査(千葉) →並木、今田
広報委員会(Web会議)
- 6日 業態進化委員会(Web会議)
- 7日 Pマーク現地審査(埼玉) →並木、今田
- 8日 サステナブル委員会(Web会議)
- 13日 Pマーク現地審査(静岡) →並木、今田
- 14日 日印産連・知財部会(日印産連) →田中専務
- 15日 委員長会議(Web会議)
- 21日 Pマーク現地審査(大阪) →並木、今田
- 22日 Pマーク現地審査(大阪) →並木、今田
- 29日 事務局仕事納め

2024年1月のスケジュール

- 5日 事務局仕事始め
- 10日 理事会(ハイブリッド)
日印産連新年交歓会(オークラ)
- 17日 MIS研究委員会(Web会議)
- 18日 CSPI 定例会(広島) →岡本会長、原田副会長、岡副会長、田中専務
- 22日 ジャグラ愛知新年会(名古屋)
- 23日 正副会長会議(Web会議)
- 24日 日印産連ステコミュ(Web会議)
- 25日 ジャグラ宮城新年会(仙台)
- 26日 ジャグラ神奈川新年会(横浜)
- 31日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会(本部)

事・務・局・便・り

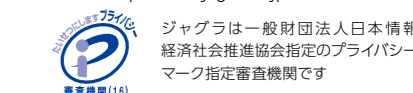
先日、うちの子供にせがまれて switch にスイカゲームというゲームソフトをインストールしました。YouTube では、多くのクリエイターがこのソフトを取り上げていて確かに流行っている様子。子供たちが遊んでいるのを見ると、自分でもプレイしたくなり、順番に混ぜてやってみました。これがまた面白い! うまくいけば気持ちいいし、失敗するとあー! っとなる。子供たちも応援してくれるし、一緒に喜んで残り残念がたりしてくる。しばらくゲームは無沙汰でしたが、子供に交じってゲームに興じるのもコミュニケーションなんだと改めて感じました。(今田)

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

GS No.865
2023
12

月刊「グラフィックサービス」865号

- 発行日 令和5年12月10日(毎月1回)
- 発行人 岡本 泰
- 編集人 本村 豪経
- 発行所
一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>



■ 編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎ 企画: ジャグラ広報委員会

- 担当理事 神山 明彦 愛知・(株)カミヤマ / 副会長
- 委員長 本村 豪経 福岡 / アイメディア(株) / 理事
- 委員

- 東海林正豊 秋田 / (株)東海林印刷
- 谷山 和也 東京 / 菁文堂(株)
- 野口 聡 東京 / (株)アクティブ
- 小澤孝一郎 山梨 / (株)オズプリンティング
- 安達 睦男 大分 / (株)舞鶴孔版
- 瀬尾 淳 広島 / (株)広瀬印刷
- 三宮 健司 高知 / (株)三宮印刷
- 佐藤 愛子 大分 / (株)クリエイツ.
- 西谷 毅 東京・文京
- 松谷 勝広 東京・文京
- 笹井 靖夫 東京・文京
- 田中 良平 専務理事
- 影山 史枝 外部委員 / (株)スイッチ

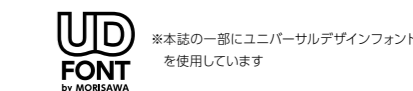
◎ 原稿・編集・校正

- 田中 良平 並木 清乃 阿部奈津子
- 今田 豪 長野未奈美 岩崎 琴美
以上、ジャグラ事務局

- ◎ 渉外 田中 良平 並木 清乃
- ◎ 広告 田中 良平
- ◎ Web 阿部奈津子
- ◎ 動画 今田 豪

◎ 組版 (株)クリエイツ.

- DTP = Adobe CC ほか
- フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



- ◎ 製版 / 印刷 (株)西村膳写堂 (高知・高知支部)
- RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf
- CTP = Luxel T-6300 (自現:富士フィルム XP-1310R)
- 刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F
- 印刷機 = RYOBI 924D
- インキ = 東洋インキ
- 用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2023 JaGra 禁無断引用

- ※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です
- 原則、TMや®マークは省略しています
- ※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたしません

【雑学コラムお題の答え】「阪神タイガースの歌」

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

